野外劇場 TAOの丘
大分県竹田市久住町大字白丹字板木7571-2
DRUM TAO ライブ
開演14:00／夏：開演16:30
お問い合わせ 0974-76-0950
スケジュールはこちら
No.21

大分の九州 人住高原ホテル
大分県竹田市久住町久住4031
tel. 0974-76-1211
No.20

竹田市直入町大字長湯字戸ノ上7759
☎0974-75-3131（おテン）
No.19

竹田名物 頭料理
御宿 割烹 一竹
ランチ／11:00～14:00　※創業料理の場合は完全予約制
大分県竹田市大字会々2266-4　TEL0974-63-2138
No.18

■竹田湧水群 5
日本名水百選にも選ばれています。阿蘇山系の湧水の中でも透明度が高く、特に「河字田（かわうだ）湧水」は最も湧水量が多く、休日には湧水を汲む人の姿が絶えません。また、「泉水（せんすい）湧水」は、ミネラルを多く含んだ軟水で、ミネラルウォーターの製造にも使用されています。【竹田市】

■小津留湧水 6
海原六神社のそばの湧水で毎分4tを湧出しています。県道沿いにあるための交通アクセスも便利。農産物等直売所が併設された「水の駅おづる」があります。【竹田市】

■岡城跡（国指定史跡）7
文治元年（1185）緒方三郎惟栄が源義経を迎えるため築城したと伝わり、「臥牛城」とも呼ばれる岡城は、島津軍の猛攻を退けた堅城として、また近代には、その城跡が瀧廉太郎の名曲「荒城の月」のモチーフとなったことで知られています。【竹田市】

■たけた竹灯籠 竹楽（ちくらく）
まるで幻想の世界に迷いこんだような、荘厳な雰囲気を醸し出す竹灯籠。竹の中に灯されたロウソクの火が、美しい自然の街並みをまたたかく照らします。【竹田市】
■11月第3週の金・土・日

特定非営利活動法人 竹田市観光ツーリズム協会
No.17

竹田のたっぷり野菜ランチ
花とカフェ RAICHIKU ~lavifle cafe~
Yellow Mail / facebook / Instagram
大分県竹田市竹田津2136-4
tel:080-2782-6654
No.2

創業140周年 九州最高所の温泉
歩いてしか行けない山小屋
大分県竹田市久住町大字有氏1783
法華院温泉山荘
TEL090-4980-2810
http://hokkeiin.co.jp
No.3

竹田の城下町が一望できる絶好のスポット
廣瀬神社
大分県竹田市大字竹田2020
TEL.0974-62-3074
No.4

レストラン　土産コーナー
営業時間 9:00～17:30(3月～11月)
9:00～16:30(12月～2月)
道の駅 原尻の滝
大分県豊後大野市三重町宮迫 936-1
TEL0974-42-4440 FAX0974-42-4142
No.5

一般社団法人
ぶんご大野 里の旅公社
BUNGO-ONO Association for Rural Tourism
〒879-7131
大分県豊後大野市三重町市場 1090 番地
TEL/FAX 0974-27-4215
info@sato-no-tabi.jp
http://sato-no-tabi.jp/
No.6

自然を未来に残し伝えるまち豊後大野市
祖母・傾・大崩 ユネスコ エコパーク
サウナのまち 豊後大野 BUNGO ONO
おおいた豊後大野ダルバーク Oita Hougoono Dalpark
豊後大野市　大分県豊後大野市三重町市場1200番地　TEL 0974-22-1001
No.7

期間限定 数量限定
六白 彩り膳
・アスパラ肉巻き
・メンチカツ
・チキンカツ
大野町産アスパラガス使用
蕎麦とレストラン 六白
三重町赤嶺 927 Tel.0974-22-3029(不定休)
営業時間 11:00～22:00
No.8

いちご狩り 時間無制限 食べ放題♪
苺狩り
農園Cafe Berry Farmer's Kitchen
一年を通して「いちご」を楽しめます。
営業時間/10:00～17:00(最終受付 16:00)　定休日／月・火曜日
Cafe営業時間／平日 11:00～16:00　土日祝 10:00～17:00
いちご狩りのお問い合わせ・ご予約はお電話でお願い致します。
あっきらきら農園
大分県豊後大野市三重町小坂1968番地
tel.090-5933-1515
HP　Instagram
あっきらきら農園 で検索
No.9

大自然の中に現れる、小さなドライブイン。
ちとせや 緑茶
豊後大野市千歳町下山918-1
phone 0974-27-5433
No.10

甘いスタイリッシュな建物が目印のカフェ。
カフェ グリーン ブラウン
cafe Green Brown
豊後大野市千歳町下山878-3
phone 0974-27-5534
No.11

■くじゅう連山のミヤマキリシマ群落 1
阿蘇くじゅう国立公園に指定され、1700m級の山々が並び「九州の屋根」といわれる絶景の広がるくじゅう連山。5月下旬から6月中旬にかけてミヤマキリシマ（国指定天然記念物）が山肌をピンクに染めます。【竹田市】

■原尻の滝 13
大野川の支流、緒方川にある滝で、幅約120m、高さ約20mあります。およそ9万年前の阿蘇火山の4回目の巨大噴火による火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩が崩落してできました。【豊後大野市】

■白水の滝 2
豊の国名水15選の一つで、岩壁から流れ落ちる雄性な姿に圧倒されます。岩間からほとばしる飛沫がいたるところで目につきます。そんな飛沫の数が九十九泉で百泉に一つ足りなかったため、百の字の一をぬかし「白水の滝」と名付けられたと伝えられています。春夏秋冬と、季節に応じた風景を楽しむことができます。【竹田市】

■白水ダム 3
国の重要文化財に指定された、日本一美しいと称されるダム。壁面の石によって美しい鱗模様が描かれ、レースのカーテンのように流れるさまは、芸術的な美しさ。【竹田市】

■瀧廉太郎記念館 4
明治の楽聖瀧廉太郎が竹田時代の約2年4ヶ月を過ごした居宅。廉太郎を偲ばせる遺品や記録が公開されています。【竹田市】

■廣瀬神社 4
数々の武勇伝を残し、ロシア研究家としても功績を残した広瀬武夫中佐を祀っている神社。【竹田市】

■愛染堂 8
寛永12（1635）年に中川久盛が江戸城普請の賄事を許って建立、愛染明王が安置され、恋愛成就の御堂として有名。【竹田市】

■歴森稲荷神社（通称 こうとうさま）1
商売繁盛の稲荷神社は、岡藩主が「神使」として、白い狐の頭を埋めたことから、「こうとうさま（狐頭様）」と愛称されていました。天保元年、第12代藩主中川久昭公は、稲荷神が一夜枕辺に立ち、危機を知らせてくれたことから、それに感謝するために、神社を造営し、「瓢森稲荷神社」と名づけられました。【竹田市】

■竹田市歴史文化館 由学館 9
田能村竹田の旧宅であった「旧竹田荘」を屋外展示とし、歴史文化館と一体化した展開を図ります。さらに岡城跡や旧城下町へ、一体感と広がりを持たせた活動を展開し、中心市街地に人が集い、周遊する体系を創出します。【竹田市】

■温泉療養文化館「御前湯」10
かつて、この地域一体を統治していた岡藩主が、趣味の山登りの後に決まって湯で疲れを癒したと伝えられていますや がて殿様専用の湯屋が設けられ、それが御前湯となりました。世界有数の炭酸泉を持つドイツとの文化交流を物語る貴重な建物で、明治と文治が日替わりで楽しめます。【竹田市】

■御客屋敷「月鐘楼」11
江戸時代、来藩した客人を迎える際に使用した屋敷。園庭は、枯山水様式で南画的な風景を表現。伊能忠敬が豊後の測量に来藩した際にも訪れました。現在は町歩きの休憩所としてコーヒーやデザートが楽しめます。【竹田市】

No.16

■竹田キリシタン資料館 12
竹田に受け継がれるキリシタン遺物や貴重な資料の展示しています。「知られざるキリシタンの里」をご覧ください。【竹田市】

No.15

■稲積水中鍾乳洞（日本最大の水中洞）14
3億年前の古生代に形成され、30万年前の阿蘇山大噴火により水没し現在の水中洞を形成しました。日本一長い水中洞窟です。洞内には世界的にも珍しい鍾乳石が沢山また、日本初の水中洞ダイビングや水中洞風呂のテントサウナを開始。透き通る水中で鍾乳石がご覧頂けて好評です。また施設内には美術館や大分県下一の滝で「稲積昇龍大観音」など、見所も豊富でお食事もできます。「いなづみ白山川キャンプ村」も併設。年中無休。【豊後大野市】

No.14

No.13

■サウナのまち
豊かな自然と恵まれた大地、文化継承などが高く評価され、九州で唯一「日本ジオパーク」と「ユネスコエコパーク」の両方に認定された大自然を活かしたアウトドアサウナを観光資源として活用するため、「サウナのまち」を宣言しました。【豊後大野市】

■沈堕の滝 12
高さ20m、幅100mの雄滝と、幅10mの雌滝の2つがあります。遊歩道も整備されており、滝周辺の雄大な景観を楽しむことができます。【豊後大野市】

■朝倉文夫記念館 15
朝倉文夫記念館は、豊後大野市朝地町出身の朝倉文夫の作品約70点を収蔵した施設です。敷地内ではショップ「園や野鳥の森など豊かな自然とふれあうことができ、静かな時の中で芸術に浸ることができる空間となっています。【豊後大野市】

■用作公園 16
（ゆうじゃくうえん）
北側の心字池を中心に、500本を越えるモミジやカエデなどの広葉樹が美しい庭園です。江戸時代に豊後国（現在の大分県）最大の藩であった岡藩を治めていた中川氏重臣家老の別荘跡で、当時は多くの文人墨客が訪れました。【豊後大野市】

■犬飼港 17
大飼港は江戸時代の初めごろに造られた川港です。当時、大野川の上流に領地のあった岡藩は、下流の三重町付近が日杵藩の領地であったため、この大飼までは陸路を移動し、ここから船で大分方面に向かっていました。河底には切り立った硬い地盤が露出していたため、溶結凝灰岩の切石を平らに敷き詰めています。【豊後大野市】

■麻生醤油屋の跡 24
江戸中期から醤油、味噌の製造販売を始め、明治初期に絶えたのち、明治10年に新築された。現在の建物は平成17年にリニューアルされ、登録有形文化財となっている。現在ぶんご大野里の旅公社事務所として活用されている。【豊後大野市】

■白山渓谷 25
白山渓谷は日本名水百選に選ばれた清流で、夏はホタルが乱舞することでも知られています。川沿いには阿蘇火砕流の柱状節理が見られ、変化にとんだ景観となっています。また途中には阿蘇火砕流によって水没したとされる稲積水中鍾乳洞があります。【豊後大野市】

■出会橋・轟橋 26
奥岳川にかかる轟橋（昭和9年架橋）は2連アーチの両端を結ぶ径間が32.1mでひネーを誇り、すべて国に名を出会橋（大正13年架橋）も径間29.3mで第2位。大自然のなか、両橋に掛く曲線はひとさわ美しい光景です。【豊後大野市】

■麻生醤油屋の跡 24
江戸中期から醤油、味噌の製造販売を始め、明治初期に絶えたのち、明治10年に新築された。現在の建物は平成17年にリニューアルされ、登録有形文化財となっている。現在ぶんご大野里の旅公社事務所として活用されている